

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月20日 現在

機関番号：11302

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22531052

研究課題名（和文）

視覚障害乳幼児の視覚活用の支援に関する研究

研究課題名（英文）

Study for encouragement of vision use with regard to visually impaired infants

研究代表者

猪平 眞理（INOHIRA MARI）

宮城教育大学・教育学部・教授

研究者番号 70232577

研究成果の概要（和文）：視覚障害児の早期支援を行う全国66校の盲学校に対して2回の実態調査を行った。その全てから回答を得た結果を踏まえて、一つは肢体不自由と知的障害のある視覚障害幼児を対象とした視覚活用の促進を目指す課題において、視覚活用実態把握表を作成し、これを生かした指導法を提案したものである。二つ目は視覚障害のある0～2歳児の視覚活用における支援方法の研究であり、超早期の支援活動を意欲的に行う、2つの盲学校の実践を基に検討し、適切な指導の方策と教材等を示す映像を教師教材としてDVD版にまとめたことである。

研究成果の概要（英文）：I made a research twice on the actual conditions of 66 blind schools all over Japan which were working on the early support for visually impaired children. I received the answers from all of those blind schools and studied a lot about the results of them.

The first fruit of this study is that, in the task to aim at encouragement of vision use for visually impaired infants with physical disability and intellectual disability, I made a check sheet for the actual conditions of vision use and suggested the method of guidance to make use of this check sheet.

The second fruit of this study is that I studied the method of support in vision use of 0~2 year-infants with visual impairments, investigated the achievements of two blind schools which were working on super-early support activity positively and produced the DVD edition for teachers which shows the appropriate method of guidance and teaching materials.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	400,000	120,000	520,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,400,000	420,000	1,820,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目 教育学・特別支援教育

キーワード：視覚障害、早期支援、乳幼児、視覚活用、重複障害児、超早期

1. 研究開始当初の背景

(1) 視覚障害児の早期支援は全国的に視覚特別支援学校等（以下盲学校とする）が担っており、その充実が必要である。中でも最

近では医療と連携した0～2歳児を対象とする超早期の支援の拡大が求められている。

光や色の玩具は見続ける、未定頸、手足に変形あり移動は不可。1年間の指導により、座位保持椅子で体幹を支え、視覚を活用し物と関わる中で定頸が促進されて手指で玩具を持ち、人に向かって声を出して交流を楽しむようになった。

③指導の方策の有効性

視覚実態把握表により、当初の状況を明確に捉えることで、視覚発達への支援の方策を確かなものにする事ができた。両名には、姿勢の保持による定頸を進め、上肢、手指の使用を誘う玩具教具の工夫、目と手の協応を促す遊びの工夫を考慮した環境を整えたこと、補助具の活用により、ボディイメージの形成を図りながら身体づくりを目指したことが視覚への積極的な働きかけと幼児期の心身の全体的な発達を相互に促進できたと思われる。

主宰する全国視覚障害早期教育研究大会においても本視覚発達実態把握表は繰り返し提示され、全国的に活用する盲学校が増えている。

(3)0歳～2歳における視覚障害児に焦点を当てた視覚活用支援についての研究である。他に先駆けて視覚障害児の超早期の視覚活用促進に熱心に取り組む千葉県立千葉盲学校、群馬県立盲学校の実践を基に、視覚障害のある乳幼児の超早期の視覚活用支援の必要性と、適切な指導方法について追求した。筑波大学教授柿澤敏文氏の協力を得て、全国視覚障害早期教育研究会の会員有志の参加や、眼科医、視能訓練士等の医療関係者からの資料提供も受けて検討を重ねた。

①超早期に必要なとする視覚活用支援の内容中心は以下の5項目である。

- ・ものを間近でじっくり見せること。
人の顔をよく見せ、喜びを味合わせる
明確に見える位置や方向を確かめること
- ・見えやすい環境作り
色彩のコントラスト、輪郭線、大きさ等の配慮、光刺激などの付加
- ・音声や口唇や手指などによる把握も大切に
にする
- ・身近な大人の励ましと共感
- ・身体づくりなど、発達全体からの働きかけ

②DVD版による教師教材として編集
(編集したDVDから)



超早期の乳幼児の支援は子どもの見たい、知りたいという意欲の育みが重要であり、身近な大人が寄り添う子どもに見えやすい環境作りが不可欠である。さらに子どもの身体作りも大切で、発達の全体から捉える働きかけが重要となる。これを実際の支援の場で、事例の成長を追う具体的な映像と玩具や教材の配慮と工夫としてまとめている。全国視覚障害早期教育研究会ではこれまでもDVD教師教材第1～3集の発行があるが、今回はその第4集として編集を行うことができた。視覚障害児の支援にあたる担当者の参考資料として意義が大きいと思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕 (計2件)

・猪平眞理：視覚障害乳幼児の超早期支援—全国視覚特別支援学校等（盲学校）における0～2歳児の支援の現状—, 発達障害研究34-4, 328-333, 2012 (査読なし)

・杉山利恵子、森栄子、猪平眞理、柿澤敏文：肢体不自由・知的障害を併せ有している視覚障害幼児の視覚活用への支援—視覚活用実態把握表（試案）を活用した事例研究から—, 弱視教育49-1, 13-21, 2011 (査読なし)

〔学会発表〕 (計3件)

・楠田徹郎、猪平眞理：盲学校（視覚特別支援学校等）における視覚障害幼児の就学先に関する実態調査、日本特殊教育学会第50回大会、2012. 9. 30、つくば国際会議場

・杉山利恵子、森栄子、猪平眞理、柿澤敏文：肢体不自由・知的障害のある視覚障害幼児の視覚活用への支援—視覚活用実態把握表を活かした取り組み—、第52回日本弱視教育研究大会、2011. 1. 13、大阪府堺市国際障害者交流センター

・楠田徹郎, 猪平眞理：盲学校（視覚特別支援学校等）における視覚障害児の早期支援の実態—平成21年度の支援態勢を中心に—、日本特殊教育学会第48回大会、2010. 9. 19、長崎大学

〔図書〕（計1件）

・猪平眞理、柿澤敏文：視覚障害乳幼児の早期からの視覚活用への支援(DVD版), 全国視覚障害早期教育研究会, 2013. 3

6. 研究組織

(1) 研究代表者

猪平 眞理 (INOHIRA MARI)
宮城教育大学・教育学部・教授
研究者番号：70232577

(2) 研究分担者

柿澤 敏文 (KAKIZAWA TOSHIBUMI)
筑波大学・人間系・教授
研究者番号：80211837